

2014年6月30日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

丸茂工業に投資を決定 早期の再生と成長支援を図る

投資ファンド運営のニューホライズン キャピタル株式会社（本社 東京都港区、取締役会長兼社長 安東泰志、以下「NHC」）は本日、成長支援を目的とした中堅鍛造メーカーである丸茂工業株式会社（本社 愛知県常滑市、代表取締役 竹内富彦）への投資を正式に決定しました。ニューホライズン 2号投資事業有限責任組合（NH-2）の投資対象事案となります。

丸茂工業は、四輪車、二輪車、船舶さらに建材等の中核部品を製造する、中堅の鍛造加工部品製造企業で、日本及びインドネシアにおいて生産・販売を行っております。近年のデフレ経済の下、景気低迷とリーマンショックによる追い打ちを受け、2012年以降の業界の需要回復にも関わらず、収益の回復が図れない状態が継続しており、国内外において設備の老朽化への対応が困難になっていました。

NH-2は同社へ総額約15億円の投資を行い、国内外の新規設備の導入を積極的に推進し、業界再編が進展する3～5年後に向け、生産効率を改善し、アジア市場における成長戦略を支援していく方針です。

丸茂への投資は、①日本の基幹産業である自動車、二輪車、船舶などにおいて欠くことのできない中核的部品を製造していること、②事業環境の好転、生産効率の向上が図れる余地の存在、原価の正確な把握による利益管理の徹底等により、収益性の改善が見込まれること、③インドネシアにおいて圧倒的なシェアを誇る日本メーカーの市場の需要拡大が期待できること、さらに、④インドネシアを拠点として、東南アジアの近隣諸国からの需要の増加が見込まれることなどから、成長戦略の推進が可能だと判断し、決定しました。

弊社は、鍛造の中でも日本が世界に誇る匠の製造工程を消滅させることなく継続的に蓄積・育成し、海外企業への技術の流出を阻止することにより、丸茂工業を再生・成長させることは、日本のプライベートエクイティ・ファンドの重要な役割だと考えており、その信念の下に今後も企業への投資を行い、企業価値の向上を図っていきます。

以上

ニューホライズン キャピタル株式会社

産業再編、事業再生のプロを多数擁する独立系企業再生（PE）ファンド。02年2月に創業した前身のフェニックス・キャピタル時代から06年10月の会社分割を経て通算12年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の累積運用資産総額2,300億円超）を背景に、NHCとして2本目、創業から8本目のファンドを運営しています。02年以来、すべてのファンドの創設時にキーマン（主運用責任者）をつとめてきた安東泰志をはじめとするNHCのチームメンバーは、三菱自動車をはじめ、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急建設、市田、ツムラ、ハウステックなど、エクイティー投資先だけで28社、債権買取を含めると80社以上という日本随一の企業再生・再編投資実績を有しています。

本件に関するお問い合わせ先：

広報担当（IFC） 竹江

電話 03-5532-8921